

令和3年度 学校評価重点目標及び取組と評価結果

令和3年9月

資料1

本年度重点目標		具体的な取組	評価指標	判定基準	集計結果	評価	分析(成果・課題と改善策)	評価
学びに向かう力の育成と学力向上	【学びが楽しい学校づくり】 体験活動や学び合いを充実させ、学習への意欲の向上と自己肯定感を高める。	・カリキュラムマネジメントの視点から、教科間や学級活動、学校行事とのつながりを十分に意識し、計画的に学習を進めていく。 ・学び合いを充実させるために、基礎基本が定着するように粘り強く指導する。そして、知識や体験をもとに児童同士が考えをつないでいく授業を目指す。	(児童アンケート) 「学校で学ぶことは、楽しいですか。」 ア 楽しい イ だいたい楽しい ウ あまり楽しくない エ 楽しくない (保護者アンケート) 「子どもは学校へ意欲的に登校していますか。」 ア 意欲的に登校している。 イ おおむね意欲的に登校している。 ウ あまり意欲的ではない。 エ 意欲的ではない。	児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが90%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが80%以上 D…それ以下	児童アンケートア+イ 95% 保護者アンケートア+イ 99%	A	【成果・課題】 ○感染症拡大防止のため、学校行事の縮小・中止があったが、特別活動における学級活動や児童会活動において、児童が主体的にアイデアを出しながら学習活動を進めることができた。 【改善策】 今後も学び合いを充実させ、主体的に課題解決に向かうことができるよう、教職員の研修を推進する。児童が「できた」「分かった」と感じることができるよう、個別指導も充実させていく。	A
	【主体的に課題解決する児童の育成】(学校研究) 主体的に学び、課題解決へとつなげることができる児童を育成する。	・算数科において、4～6年生は毎単元末で単元まるごとの授業を行う。物事を複合的に考えて課題解決する活用力と実生活に生きて働く力の育成を図る。 ・【思考力・判断力・表現力等】の授業では、適用問題等で、根拠を示して表現する場面を設定する。	(児童アンケート) 「相手を意識し、自分の考えを根拠を入れて、わかりやすく説明することができている。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった (教職員アンケート) 「子ども達に接続詞や学習用語等を意識させ、自分の考えを筋道を立てて説明する指導がなされている。」 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった	児童アンケート・教職員アンケートともに A…ア+イが90%以上 B…ア+イが80%以上 C…ア+イが70%以上 D…それ以下	児童アンケートア+イ 94% 職員アンケートア+イ 100%	A	【成果・課題】 ○わかりやすく説明するためには、まず自分の考えをもっていなくてはならない。授業の中で必ず自分の考えをもたせることを教師が意識して取り組むことができた。 ▲子ども達はできていると思っていても、教師が求める姿に達していない状況があった。高い自己肯定感を保ちつつ、その差を埋めていく必要がある。 【改善策】 実際に授業での声かけや指導の手順などが、更に具体的なものとなるよう研修をしていく。	A
	【家庭学習の確立】 保護者と連携し、子どもたちの学習習慣を確立する。	・音読や漢字・計算練習(高学年は自学ノート)を基本に、学年に応じた家庭学習の時間を確保する。 ・家庭学習強化週間は特に、お便り等で呼びかけを行う。また、学級懇談では、家庭学習のてびきを活用し日頃の家庭学習の取組について確認し、改善していく。必要に応じて、個別指導も行う。	(家庭学習調査結果) 家庭学習強化週間記録カードをもとにした、家庭学習の目標(低学年20分・中学年40分・高学年60分以上)達成者数 ア 80%以上 イ 70%以上 ウ 60%以上 エ 60%未満	A…ア B…イ C…ウ D…エ	平日の平均学習時間目標達成者 88.6% (参考) 平日すべてにおいて目標時間達成者 69.6%	A	【成果・課題】 ○どの学年でも、学習時間を意識して、家庭学習に取り組むことができている。家庭の協力を得ながら、家庭学習の習慣づけがされつつある。 ▲同じ宿題に取り組んでも、かかる時間には個人差がある。 【改善策】 引き続き、家庭学習習慣の形成を家庭と共に進めていく。個人差に配慮しつつ、宿題の種類や量等に加え、進んで自主学習に取り組めるよう促したり、宿題の出し方を工夫したりする。	A
いじめ・不登校のない学校づくり	【特別活動の充実】 学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定して実践したりする力を育成する。	・学級活動において学級会活動の時間を確保する。 ・児童が自主的・実践的に取り組むことを通して、互いのよさや個性、多様な考えを認め合い、合意形成に関わる役割を担うようにする。	(児童アンケート) 「学級会で友だちの考えを聞きながら、自分の考えを話すことができている。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない (職員アンケート) 「学級活動で学級会活動に取り組んでいる。」 ア そう思う イ どちらかと言えばそう思う ウ どちらかと言えばそう思わない エ そう思わない	児童・職員アンケートで A…児ア+イが90%以上かつ職アが100% B…児ア+イが80%以上かつ職ア90%以上 C…児ア+イが70%以上かつ職アが80%以上 D…それ以下	児童アンケートア+イ 95% 職員アンケートア+イ 100%	A	【成果・課題】 ○校内研で、模擬学級会を行い、話し合いの仕方のイメージを職員間で共有できたこと、職員室で学級会の情報交換をできたことが効果的だったと考えられる。また、かがやき集会を6年生を中心に運営することにしたことも、6年生や委員会での話し合いが活性化したことにつながっているように感じた。 【改善策】 ・どの学級でも行事や、学級での問題等について学級会で話し合っている。より学級会を効果的なものにするために、職員間で成果と課題を共有し、どのような場面で学級会を行うべきなのか、教師はどのような役割をすればよいのかなどについて改善していきたい。	A
	【規範意識の高揚】 社会的なルールやきまりを守る意識を高め、いじめや暴力行為のない学校をつくる。	・毎月、児童会を中心に生活目標を設定し、具体的に取り組むことを通して、社会的なルールやきまりに対する意識を高める。 ・全職員が全校児童の担任であるという意識を持ち、児童の様子を観察することで、いじめの兆候の早期発見を目指す。さらに、いじめ撲滅集会などを通して、いじめや暴力行為のない学校づくりを目指す。	(達成目標) (保護者アンケート) 「学校は、いじめや暴力行為のない学校づくりに努めていると思いますか。」 ア そう思う イ どちらかといえばそう思う ウ あまり思わない エ 思わない (児童アンケート) 「児童会生活目標が守れましたか。」 ア できた イ どちらかといえばできた ウ あまりできなかった エ できなかった	児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが95%以上 B…ア+イが85%以上 C…ア+イが65%以上 D…それ以下	保護者アンケートア+イ 95% 児童アンケートア+イ 95%	A	【成果・課題】 ○毎月、児童に対していじめやいじわるに関するアンケートを実施したり、児童理解の会を開いたり、職員全体で情報を共有し、対応してきた成果が感じられた。いじめ撲滅集会では、6年生を中心に児童が主体となって内容を考え、いじめについて全校児童で考え、話し合うことが出来た。 【改善策】 ・今行っている取り組みをしながら、児童の小さな変化にも目を向け、いじめを未然に防いでいく必要がある。	B
学校と家庭地域の連携	【自己健康管理能力の向上】 めあてを持って、自らよりよい生活習慣を実践しようとする態度を育成する。	・「早寝早起き朝ごはん」をはじめとした規則正しい生活習慣の確立を目指し、学期毎に「バランスアップ週間」を設定して取り組む。 ・各学級で「就寝時刻」「起床時刻」「メディア時間」のめあてを決め、保護者の指導を得て達成度チェックをしてよりよい生活習慣の実践を目指す。	(バランスアップカードの結果) 早起きのめあてが守られたか。(各学級でめあてを相談) ア 70%以上 イ 60%以上 ウ 50%以上 エ 50%未満	バランスアップカードで A…ア B…イ C…ウ D…エ	バランスアップカード(5月)の結果 起床時刻のめあて達成度ア：63人(79.7%)	A	【成果・課題】 ○バランスアップカードによる起床時刻調査で、学級で相談して決めた起床時刻の目標達成率は78%であった。平日では82%の達成率で実際に6時30分には起床している児童は76%、7時までに起きる児童は24%でほぼ良好と言える。 ▲休日の起床時刻が目標よりも1時間以上遅い児童がいる(1割) 【改善策】 ・バランスアップ週間の前に、学級で休日でも平日と同じ生活リズムの大切さを年齢に応じて指導をする。	A
	【家庭・地域との連携協力体制の確立】 家庭や地域と学校との繋がりを大切にし、家庭と地域の教育力を生かした学校づくりを行う。	・学年懇談会で学年ごとの、「家庭生活」の約束(重点目標)を決める。 ・学校だよりや学級だより等を通じて、取組の啓発を図る。 ・取り組み強化週間を設け、その結果を児童や保護者に知らせ、意識の継続を図っていく。	(児童アンケート) 保護者とともに決めた「家庭生活」の約束(重点目標)を達成することができたか。 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった (保護者アンケート) お子さんは「家庭生活」の約束(重点目標)を達成することができましたか。 ア できた イ だいたいできた ウ あまりできなかった エ できなかった	児童アンケート・保護者アンケートともに A…ア+イが80%以上 B…ア+イが70%以上 C…ア+イが60%以上 D…それ以下	児童アンケートア+イ 97% 保護者アンケートア+イ 71%	B	【成果・課題】 ○学級懇談会の場で、児童の実態等を考慮した約束が決められており、日常的に取り組みやすいものとなっていたため、児童の意識調査の結果はよい。 ▲児童と保護者の意識の差が大きい。 【改善策】 ・次回の学級懇談会において、結果について話し合い、各家庭での取組について振り返る。 ・学級会の「基本的な生活習慣の形成」の指導において、「家庭生活の約束」を考える機会を設ける。	B
業務改善	【業務改善】 教職員が、心身ともに健康で、明るく元気に児童と向き合うため、時間外勤務時間が月60時間を超える教員(のべ)の割合を7%以下にする。	・毎月、第3水曜日を定時退校日とする。また、個別で毎月2回マイ定時退校日を設ける。 ・週初めに予定退校時刻を設定し、週案に記載することで、時間管理を意識した働き方を推進する。 ・今年度の最終退校時刻は、19：30とする。 ・副担当制を取り入れ、業務の平準化を図る。 ・8月10日～13日、16日の5日間を学校閉庁日とする。 ・PTAの会合等で取組に対する理解を求める。	(勤務時間調査) ア：月60時間を超える教員(のべ)が7%以下である。 イ：月60時間を超える教員(のべ)が30%以下である。 ウ：月60時間を超える教員(のべ)が30%を超える。 エ：月80時間を超える教員がいる。	A…ア B…イ C…ウ D…エ	4月1人 5月0人 6月1人 7月0人 8月0人 延べ人数2人 18.2%	B	【成果・課題】 ○マイ定時退庁日を1回から2回に増やし、第3水曜日の定時退庁日と合わせて3回設定することを意識して取り組むことができた。 ▲時間外勤務の平均時間は繁忙期だと60時間を超える職員が主任層で1～2名いる。 【改善策】 提案等は見通しを持って早めに行う。また、優先順位をつけて協議するなど、会議の時間短縮や回数削減に努める。	B

評価： A 達成 B おおむね達成 C ・ D 改善が必要